第２０回漢方教室（漢方）

こんな時には漢方を－漢方や鍼灸ってどんな治療？－

Ⅰ．「漢方」って何？

１　西洋医学と漢方の歴史

１）発展の歴史

西洋医学：

ヒポクラテス（B.C.460～・古代ギリシャ）→ 医学の父

ヨーロッパ、アメリカで発展

日本へは江戸時代後期にオランダ医学（蘭方）として輸入

東洋医学：

張仲景（A.D.150？～219？・古代中国・後漢）　→　『傷寒論』『金匱要略』

中国大陸で発展

日本へは紀元 5～6 世紀に朝鮮半島を経由して伝来（遣隋使・遣唐使）

室町時代に田代三喜たちが明の医学を伝える

日本では江戸時代に最盛期を迎える

★東洋医学は西洋医学とは診断治療体系がまったく異なる「もう一つの医学」である。

２）東洋医学と漢方

江戸時代後期にオランダ医学（蘭方）が伝来

それまであった医学は中国（漢）から伝来したもの　→　「漢方」

★漢方は「日本の伝統医学」である。

２　日本における漢方の現状

- 西洋医学を学んだ医師と薬剤師だけが漢方治療を実践できる
  中国や韓国では西洋医学と伝統医学（中医学・韓医学）はそれぞれ別の大学で教育され、医師免許も別である
- 保険医療制度の中で、西洋医学治療と同時に漢方治療を受けることができる
- 漢方エキス製剤が広く普及している
- エキス治療も生薬治療も健康保険で取り扱われる
- 医学教育および薬学教育モデル･コア･カリキュラムに組み込まれ、全国の医学部および薬学部のすべてで漢方医学教育が実践されている
- 漢方専門医制度および認定漢方薬剤師制度が確立している
  漢方専門医になるには、西洋医学の基本領域（内科・外科・産婦人科など）の専門医を持っていることが条件となる
- 病院や医院の標榜科として「漢方内科」などが認められている

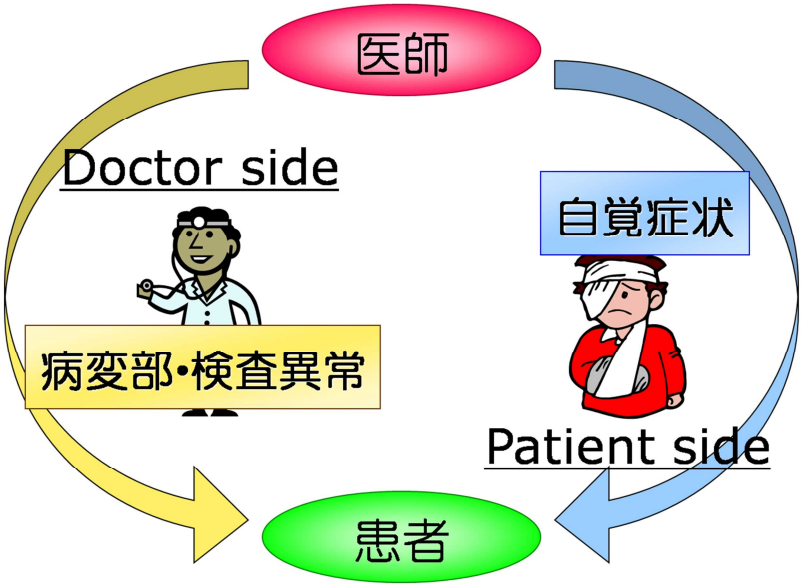
Ⅱ．西洋医学と漢方の違い

1　西洋医学と漢方の病気に対するアプローチの違い

治療を行う目標

Doctor side：他覚所見（病変部、検査異常など）→ **西洋医学**

Patient side：自覚症状 → **漢方**



2　西洋医学と漢方の得意領域

西洋医学　器質疾患
病変部・検査異常からアプローチ

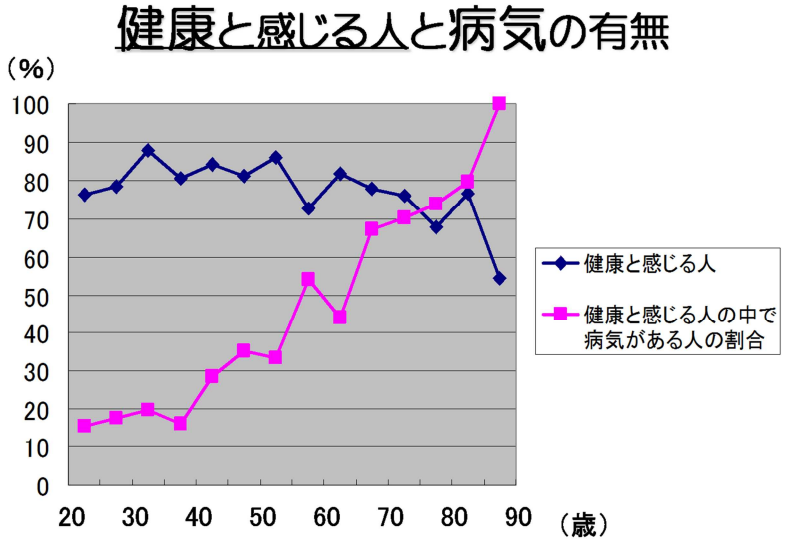
- 器質的異常を主とする例
- 西洋医学的治療で速やかに改善する可能性の大きい例
- 悪性腫瘍などで手術適応の明確な例
- 緊急度が高い例

漢方　機能疾患
自覚症状からアプローチ

- 機能的異常を主とする疾患
- 虚弱体質、無力性体質者:「風邪をひきやすい」など
- 免疫異常が関与あるいは疑われる例
- 症状を説明できるだけの検査所見の異常がない例
- 心身症傾向のある例
- 西洋医学的治療で副作用を生じやすい例:高齢者など
- 西洋医学的治療の無効な例

3　「健康であること」と「病気がないこと」は違う

長野県旧長谷村（長野県伊那市長谷）でのフィールド調査



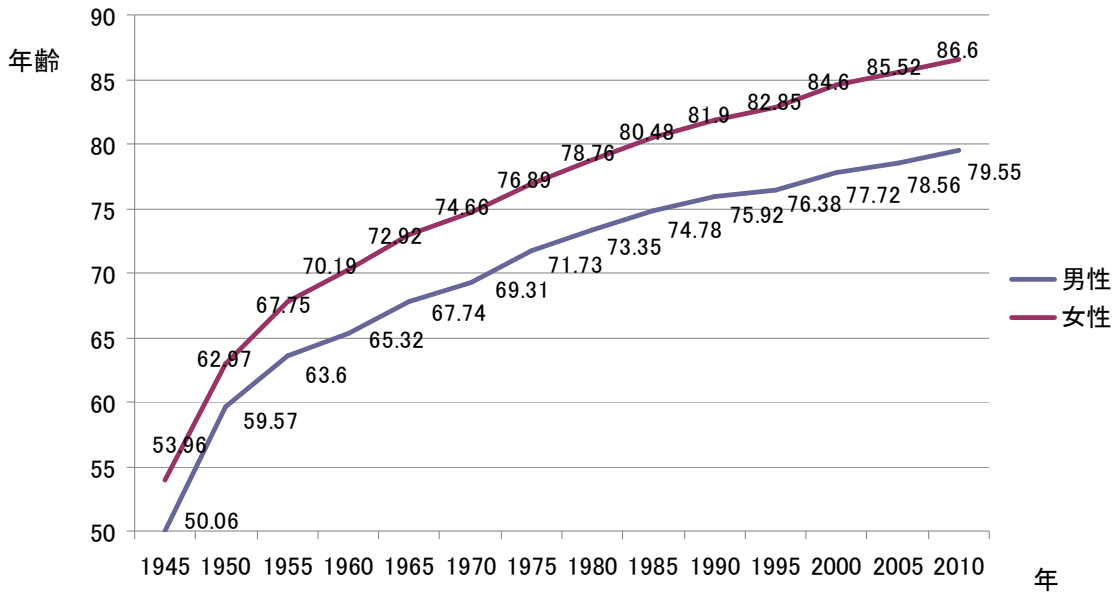
★特に高齢者では「健康」と感じていても「病気」がある場合が多い。

4　東洋と西洋の本質的な考え方の違い（東洋のパラダイム）

1）日本人の平均寿命（2010 年）

女性：86.60 歳（世界第 1 位）

男性：79.55 歳（世界第 4 位）



厚生労働省・簡易生命表より作成

★人間の寿命は何故こんなに伸びたのだろうか？　西洋医学の恩恵だけなのか？

2）東洋医学からみた寿命

人生十歳、五蔵始定、血気已通、其気在下。故好走。
二十歳、血気始盛、肌肉方長。故好趨。
三十歳、五蔵大定、肌肉堅固、血脈盛満。故好歩。
四十歳、五蔵六府、十二経脈、皆大盛以平定、腠理始疏、栄華頽落、髪頗斑白。平盛不揺。故好坐。
五十歳、肝気始衰、肝葉始薄、胆汁始滅、目始不明。
六十歳、心気始衰、苦憂悲、血気懈惰。故好臥。
七十歳、脾気衰、皮膚枯。
八十歳、肺気衰、魄離。故言善誤。
九十歳、腎気焦、四蔵経脈空虚。
百歳、五蔵皆虚、神気皆去、形骸独居而終矣。

（『黄帝内経』霊枢・天年篇より）

★東洋医学では 2000 年以上前から、人間は 100 歳まで生きると考えていた。

3）不老長寿の薬

上薬　軽身益気、不老延年に役立つ（120品）
人参、黄耆、大棗、甘草など

中薬　発病を抑え、虚弱を補う（120品）
当帰、柴胡、麻黄、芍薬、葛根など

下薬　病気を治療する（125品）
大黄、附子、半夏、しゃ虫など

（中国最古の薬物学書『神農本草経』より）

★東洋医学では、最上の薬（上薬）は「不老長寿の薬」と考えていた。

4）長寿とは

「長き（長寿）とは、短かくして之を継ぐにあらざるなり。その数をつくす（天命を全うすること）なり。（長也者非短而續之也畢其數也）」

「数をつくすの務めは、害を去るにあり。害を去るとは何を言う。大甘、大酸、大苦、大辛、大鹹……。（畢數之務在乎去害何謂去害大甘大酸大苦大辛大鹹）」

－『呂氏春秋』巻三　季春紀－

★東洋医学では、「人間は本来、長寿で天命を全うできるはずだが、短命なのは不摂生や不養生で命をすり減らしているからだ」と考える。

5）西洋は性悪説？ 東洋は性善説？

西洋医学：短命な人間を医学で救う
病気を見つけて取り除くことが治療の本質
→ 病変部にこだわる

東洋医学：長寿を妨げている原因を取り除く
自覚症状を改善することで心身ともに健康な状態にすることが重要
→ 健常部位にも注目する
「未病を治す」という発想がある

Ⅲ．漢方治療を行うメリット

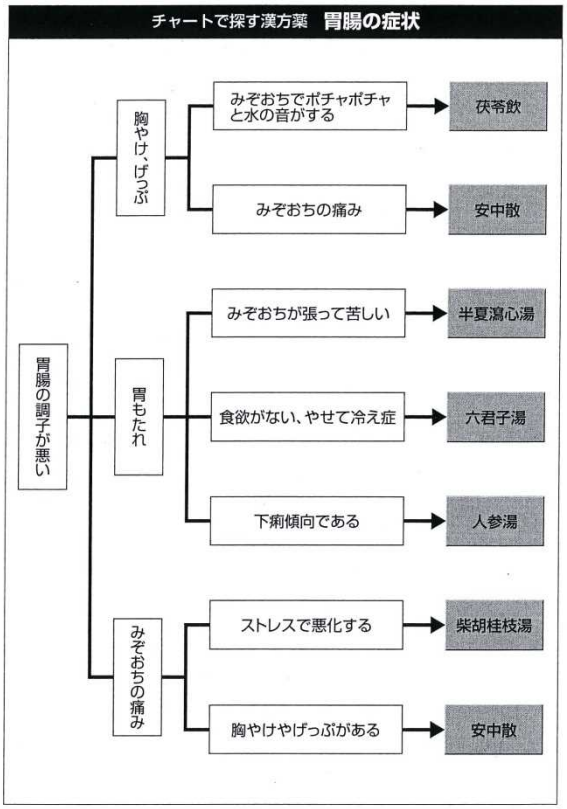
○自覚症状の改善に優れた効果がある
○病因・病態の明らかでない場合にも治療が可能である
○病気を治す（cure）というより、病を癒す（care）効果がある
○単一の製剤で多くの薬効がある
○主症状を改善するだけでなく、周辺症状まで改善する
漢方治療で期待していた症状以外のさまざまな症状まで改善する
・免疫賦活作用を有し、体力をつける作用がある
・人間が本来持っている自然治癒力を高める
カゼを引かなくなる
体質を改善できる など
○身体と精神を同時に治療できる（身心一如）
○作用は自然で、副作用が少ない
○医療費が削減できる場合が多い

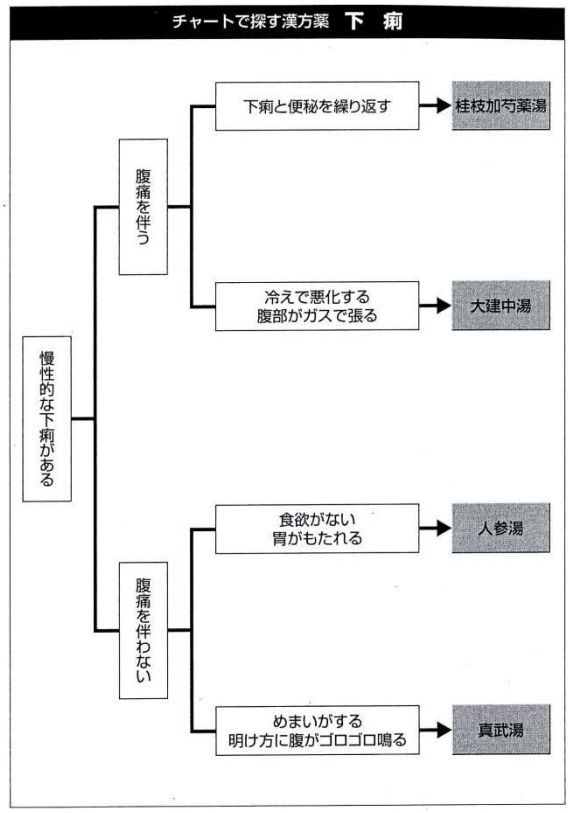
Ⅳ．漢方外来を受診する人の傾向

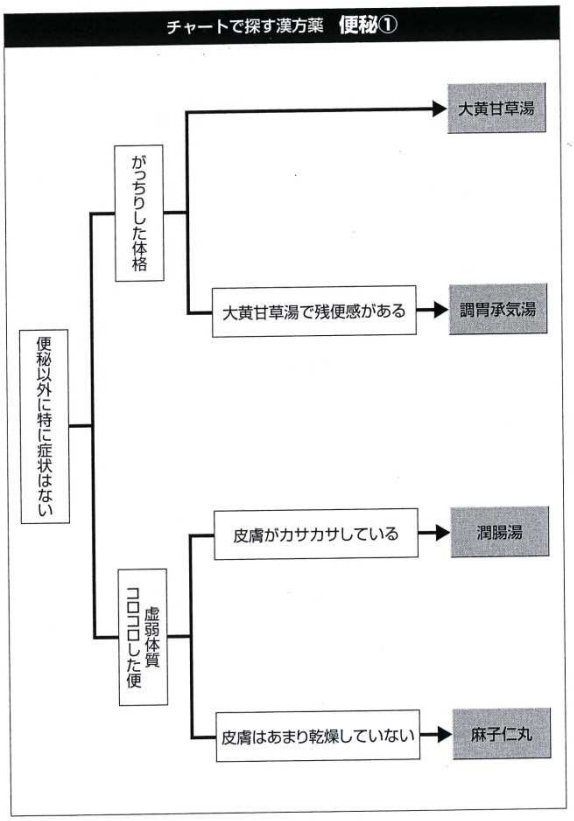
【外来を受診する患者の３つのパターン】
○自覚症状があっても病気がない人
○西洋医学で病気がわかり治療をしているけれど、なかなかは治らない人
○西洋医学嫌いの人

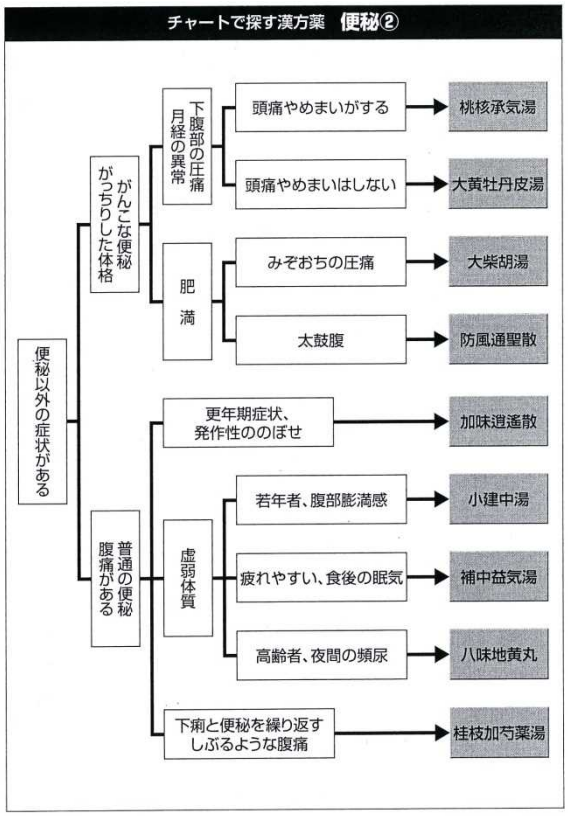
Ⅴ．チャートで探す漢方薬　　新井 信著『症例でわかる漢方薬入門』（日中出版）より引用

1　消化器症状

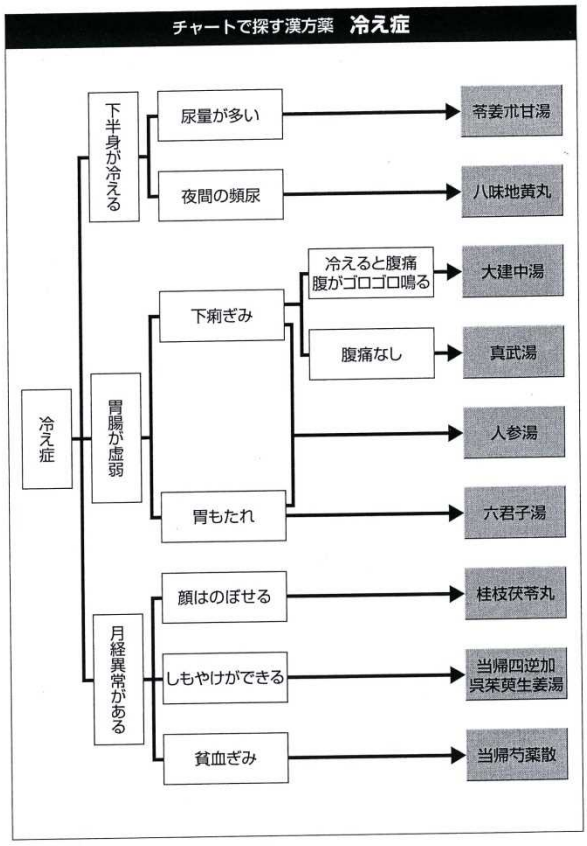


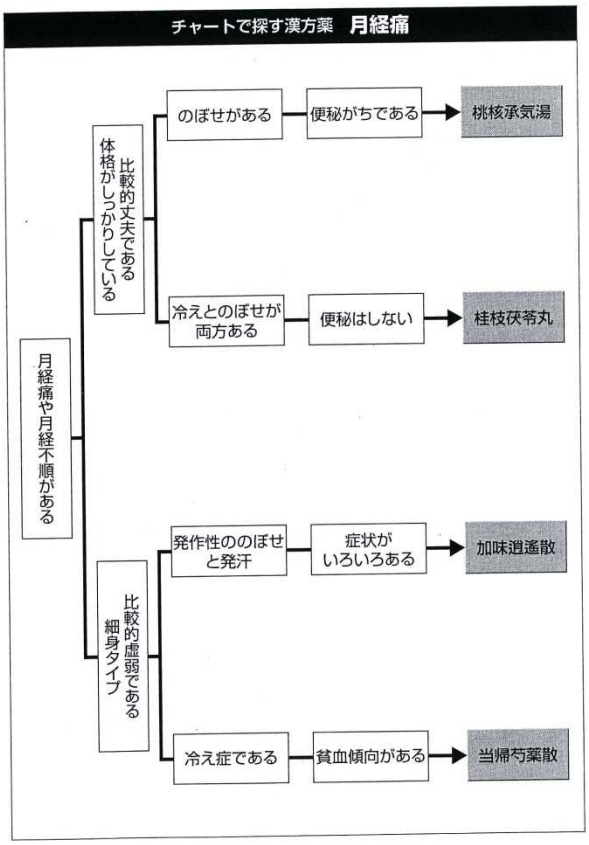




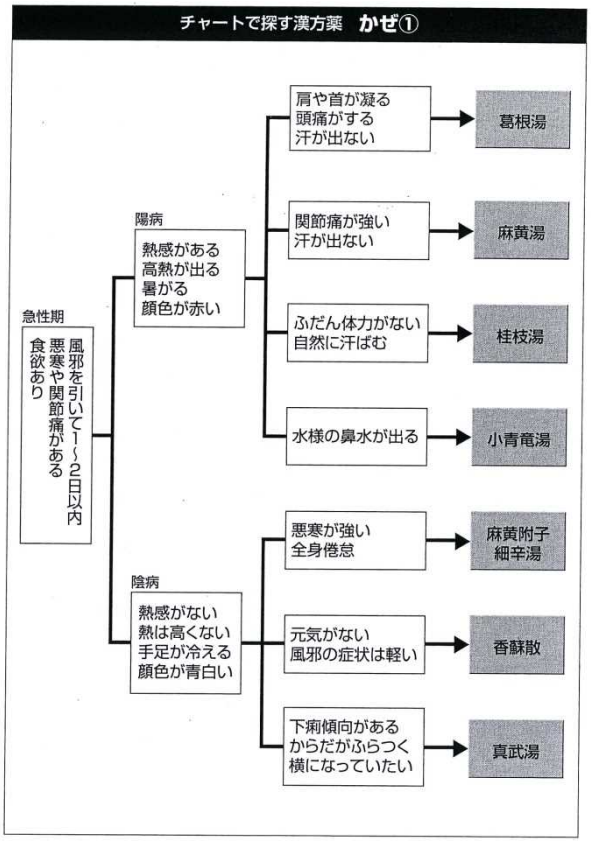


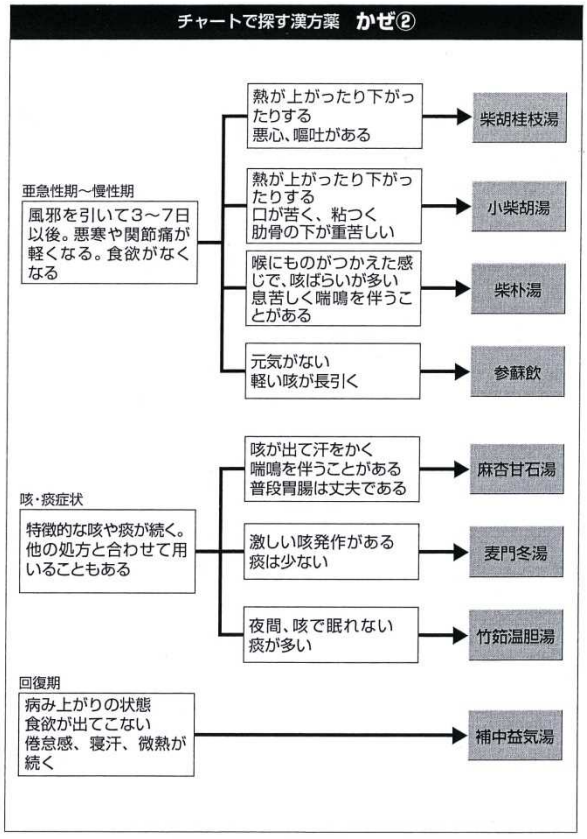
2 婦人科症状



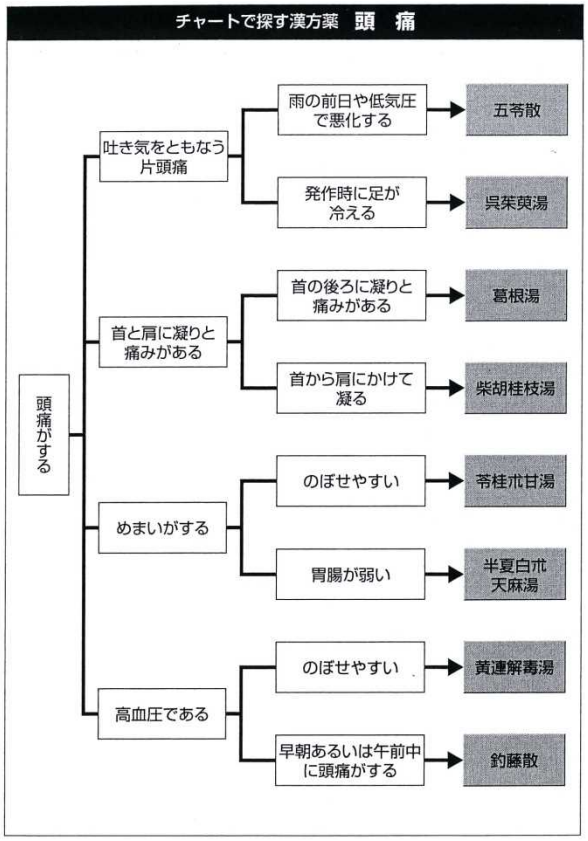


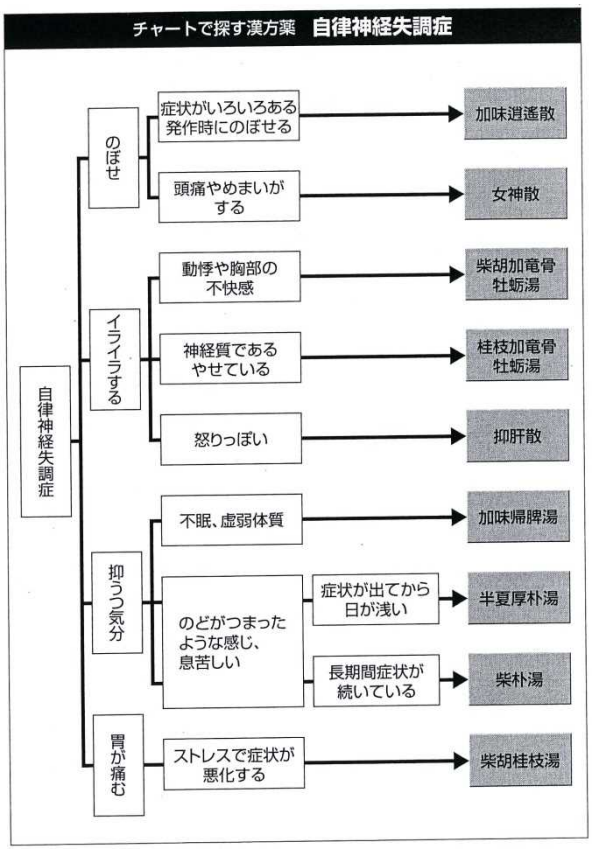
3 呼吸器症状

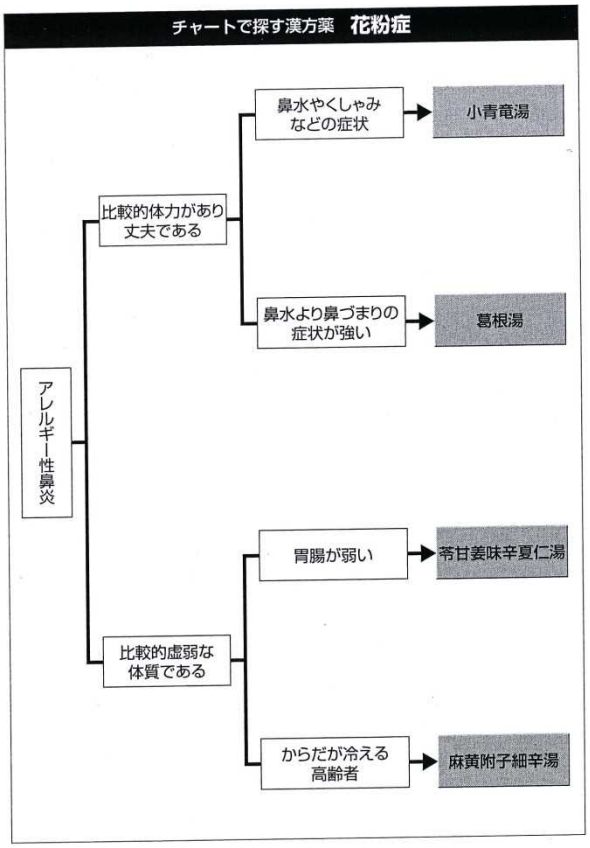




4 その他の症状


チャートで探す漢方薬 頭 痛
頭痛がする
吐き気をともなう片頭痛
雨の前日や低気圧で悪化する
五苓散
発作時に足が冷える
呉茱萸湯
首と肩に凝りと痛みがある
首の後ろに凝りと痛みがある
葛根湯
首から肩にかけて凝る
柴胡桂枝湯
めまいがする
のぼせやすい
苓桂朮甘湯
胃腸が弱い
半夏白朮天麻湯
高血圧である
のぼせやすい
黄連解毒湯
早朝あるいは午前中に頭痛がする
釣藤散


チャートで探す漢方薬 自律神経失調症
自律神経失調症
のぼせ
症状がいろいろある発作時にのぼせる
加味逍遙散
頭痛やめまいがする
女神散
イライラする
動悸や胸部の不快感
柴胡加竜骨牡蛎湯
神経質であるやせている
桂枝加竜骨牡蛎湯
怒りっぽい
抑肝散
抑うつ気分
不眠、虚弱体質
加味帰脾湯
のどがつまったような感じ、息苦しい
症状が出てから日が浅い
半夏厚朴湯
長期間症状が続いている
柴朴湯
胃が痛む
ストレスで症状が悪化する
柴胡桂枝湯


チャートで探す漢方薬 花粉症
アレルギー性鼻炎
比較的体力があり丈夫である
鼻水やくしゃみなどの症状
小青竜湯
鼻水より鼻づまりの症状が強い
葛根湯
比較的虚弱な体質である
胃腸が弱い
苓甘姜味辛夏仁湯
からだが冷える高齢者
麻黄附子細辛湯